工業大学新聞
東京工業大学新聞部会社団法人新聞部■目黒区大岡山2－12－1■電話（726）1111・内線（2392）

1969
1月20日
第672号
発行／毎月5日・20日　1部15円
〒共・年間150円振替東京76839

―「〇管規」白紙撤廃闘争五項目要求―
①「〇管規」完全白紙撤廃声明を要求する
②向岳新寮建設を確約せよ
③1・25学長声明白紙撤回を要求する
④学生のスト権、団交権を認めよ
⑤以上4項目を大衆団交の場で確約せよ

〈紙面案内〉
□一面　無期限スト新聞会声明　闘争経過　巨視微視
□二面　論説　東大闘争経過
□三面　投稿「無期限ストの意味を問え」　東大闘争写真特集
□四面　寮闘争の現在的地点　闘争資料

1・29学生大会
5項目要求掲げ無期限ストに突入

新聞会声明
斗争主体の確立を無期限ストの徹貫へ

寮闘争は一月十四日、事務所での学長団交要求集会に端を発し、東大安田講堂から多大の影響を受けながら、現在無期限ストへと発展した。この間の闘争の盛り上りを支えていたのは、闘争主体の強固な思想性と組織性というよりも情況の重さによるといえる。「東大のようになってはいけない」という発想が、寮生を過大評価し、一方的に対応し、その中で自らの弱さを露呈したのが大学当局であった。一挙に寮問題が何の媒介もなしに寮問題として拡大して行き何が全学的な問題であるのかという思想的裏付抜きにして、何らかの解決策を捜し求めて奔走し、とりとっているのが闘争全体をおおっているベールである。

私達が闘争の主体として、この寮闘争に関わって行けるのは、マル管規が出てきた事体の、歴史的、政治的意味を一人一人がとらえ返す所からしかあり得ない。いたずらに大学当局の学生対策的方針に踊りを発散させることは、事の本質に対する背信行為となるであろう。

マル管規は、大管法が廃案となる中から、最も先鋭な部分が残る寮、学館等への個別攻撃へと変って行ったことの現れである。六二年の大管法闘争が、教授会をも含んだ形で、自らの「大学の自治」を政府、文部省から守ることに成功したが、それは単に自主規制路線によって大学支配の中間的媒介項を設けたにすぎない。

大学の自治を守るということが学生の自治への管理としてあるがゆえに、大学側は寮自治、学生の自治を認めるわけには行かない。本質的に自治と管理は相入れない。つまり大学の自治は決して文部省からの自治とはなり得ない。学問、研究の自由は決して産業界からの自由とはなり得ない。逆に学生の自治を認められない大学というものは、体制のしめつけから解放されることはない。「マル管規は好ましくない。」「機動隊の導入は好ましくない。」ということをいいつつ、マル管規の適用を機動隊の導入を許容させるを得ない大学が、予算面をテコとして国家支配の貫徹へと動き出しているのが現状である。又一歩大学の自治の幻想性に固執した所からは、自主防衛武力路線へと上昇する。それは大学の自治が大学機構のもつ力を背景とした幻想であることによる。国を守るという幻想性が、侵略するという側面を持つように、この幻想は侵略することが具体的には独占資本の海外侵略である、ということを語らずに自らを合理化する道具であった。大学の自治、学問研究の自由も、現在の生活の場を保障、維持して行くための特り言葉に過ぎない。京大、立命館大で武力自主防衛路線が破綻をきたした現在、自主規制という中間的媒介の無能性は余々に暴露されてしまった。これは学生運動が、特に東大闘争が大学の自主規制路線を打破し、安田講堂まで徹底的に機動隊に抵抗し、国家権力との直接的に対決へと迫った力によって始めて、自明のものとなった。

現在未だマル管規が単なる寮を超える諸の問題として存在している感があるが、まさにこうした大学支配体制のより一層の強化としてとらえる必要がある。大管法の実質化である複数学部制は、教授会から多くの権限を奪い、文部官僚の下へ中央集権的に再編していく過程であった。教授会の権限を評議会に、評議会の権限を学長にという支配の系はより強くこそなれ弱められることはないであろう講座制は、決して他人の研究に口をさし入れない代りに自分の講座に干渉をして欲しくはないという、相互不干渉という不文律を設け、ひたすら、生活するために自己の研究を切り売りするものとして存在している。「学問、研究の自由」という錦の旗は、この存在している既得権を神格化する文句に過ぎない。優秀な講座に多くの金を投入し、多くの収益を得るというのが資本の一貫した論理であった。

こうした大管法の実質化としてある複数学部制、その個別攻撃としてあり、工大あっての寮問題として規約、条文の妥当性に、矮化されてはならない。マル管規事体認められないものであるから、その条文はマル管規の具体化であり当然これも認められない。「寮は建てる。しかし建ててから問題が起ると困るから、規約をのまなければ予算はおろさない。」ということは、まさに学生対策として、さらに直接的に学生運動対策として語られている。今大学当局は自主規制というより管理に文部省の学生対策を補完する実体的荷い手になろうとしている。

当局者が、「理性的に物事を解決して行こう」というとき、それが現実からの逃避であることに気付く、もし現実が合理的であるならは、理性は現実を支配し、解決して行けるであろう。しかるに一切の歴史、政治は理性によっては支配されてこなかった。ベトナム戦争を誰が理性によって解決しようというだろうか。現実が理性的でないが故に、合理的でないが故に東大において見られたように「理性をすてるか、大学をすてるか」という形で問がたてられ、結局理性をすて、秩序の維持のために自ら、非理性へと押しやられた。

東工大においても「公開、対等民主的ルール云々」として、民主的解決という言辞によって、マル管規が一体何であるのかに一切触れずに事態収拾策のみに奔走している。

大学当局が作り出した"異常さ"は運動自体のもつ論理によって突破して行くだろう。この運動を支えている個々人にとって自分の所まで引き戻してきた場合、思考する場は東工大という空間からはるかにはみ出した所で設定せざるを得ない。そして学生であること自体を問題にして行かざるを得ない。そのとき始めて、国家による大学支配体制の中へ取り込まれ、エリートとして系属していく自己との対決まで上昇するであろう。

五項目要求が目指しているのは個々の項目ではなく、寮自治体の主体である所の寮生に管理運営権があるということを実質的に大学側に認めさせることにあり、文章上の問題ではない。この作業の具体化が無期限ストライキの思想性に打ち抜かれたとき始めて現在闘争全体を被っているベールをとり払い、スト賛成派とスト反対派の間にある価値感の対立という一見解決不可能な二元論のあつれきを打破できるのである。

このことを一つのバネとして、五項目要求の実質化が、大学支配体制の一角を切り崩す闘争としてあり、学生自治権の拡大強化によってのみ保証される。

教室自主管理で闘う
大学当局ほぼ態度固める

このストライキは、スト権を確立したまま、一週間毎に学生大会を開いた五項目要求に対してのチェックポイントとする点が、純粋な意味での無期限ストと異っている。工大史上始って以来のこの無期限ストライキは、〇管規白紙撤廃を中心とする五項目要求で起ち上った学友によって更に闘い抜かれている。

二十九日突入した無期限ストライキは、各学科、クラス闘争委員会の自主講座、教室自主管理を基盤にしながら推進されている。三〇日以後の自主講座・討論は、無期限ストライキの意味、〇管規の意図、団交における形式問題等々の課題を中心にされているようである。教室自主管理は、三〇日若干の衝突はあったが、教務課より講義室のカギを全学闘争委員会が保管することによって貫徹されている。

十四日以後、一連の大学当局による寮闘争の関わりは、学生対策としてのみ意図されてきた。その結果が今闘争の急速な全学的拡大をみせたことは今さらいうまでもなかろう。学生対策と、工大学寮を学生と話し合って解決しようという自主規制とが露骨に提出されたのである。一見学生自治、あるいは大学自治という段階での、大学当局による「民主的」装いをこらされた破壊策動として現象してきた。しかし、事態は、単に大学当局の一方的自治破壊に止まらない点こそ問題なのである。無期限ストライキを徹底して貫徹して行くことを通して更に実体化されるであろう。

各クラスの講座（＝現在の所無……カリキュラムには至っていない。工大始って以来の無期限ストであるだけに、若干のとまどいはあった。また一週間後にチェックポイントとして設定された学生大会に向けて意志結集を計る必要があった。しかし、何よりも自分達が何をしようとしているのか、そして無期限ストをどう闘い抜いてゆくかに討論が集中したのは当然なことであった。再び確認するようだが、唯一、無期限ストと五項目要求として貫徹する闘いと表裏関係の中から展望は開かれねばなるまい。

十四日から二十九日まで、さまざまな恫喝と、妥協のポーズを出しながら学生に対する管理者とし……

十四日団交拒否す

十四日十二時、五寮委員会は、新役学長に団交を要求した。しかし学長、本庄教務部長とも「いない」との理由で拒否。五寮委は、やむなく事務棟ロビーで学長団交要求集会を開いた。集会に対して大学当局は、「すわ事務棟占拠あるいは封鎖か」との被害妄想的に突き動かされながら、ロビーと事務室の間のシャッターを自ら閉じまったく寮問題の現段階に対処し得ない姿を露呈する結果となったのである。

「〇管規撤廃」「一〇〇人個室獲得」「学内新寮を建てよ」のスローガンの下、集会で学長団交を要求した。九時すぎ、場所を三〇二番講義室に移して、団交の回答を待った。午後十一時学長代理、彰野工学部長から、「学長は、現在大学に向いつつある。今夜団交に応じてもよいが、できれば〇管規について勉強したいので十七日に団交を延期してもらいたい」との要請があり、それを了承した。

十五日　全学教授会が、七三二番講義室で開かれた。

十六日　大学当局は、クラス、学科に対して、一方的な観点からなる「寮生諸君へ」なる討議パンフレットを配布。又運動部会内十二サークルのマネージャーに対して、浅枝教授は寮問題が、全学的な問題である旨の説明会を行った。

全学集会で分断策動を計る

十七日、屋教務部長室前で、この日の交渉場所をめぐり、五寮委と、慶伊・松山・教授及び本庄教務部長との間で討論が行なわれた。

再度団交を徹夜で追求

二十日（火曜）午後五時から、翌二十一日明け方にかけて、大学当局に寮問題にかんする団交を求める、集会が、三〇五番講義室で持たれた。

参集者は、学部、院生、教職員が含まれ、三〇五番講義室をほぼ埋め尽す、およそ五百名に近い。また、大学側からは、新寮建設特別委員長浅枝教授、本庄教務部長、川喜多新寮建設特別委員が、正式の寮に対する交渉相手として列席した。

集会は、五寮委員会の議事運営で始められた。

主たる議題は、①寮生が事務棟を封鎖するという名目で、逆に大学側が事務棟を逆閉鎖したという事実（一日十四日）についての釈明要求。②十七日の大学側の分裂集会策動の釈明と自己批判の要求。③この間の緊急事態に大学側の責任者が大学に不在であったことにかんする釈明と、今後その様なことがないということの確約の追求④大学側の団交拒否糾弾と、団交要求、の四点があげられ、大学側を徹底的に追求した。

団交要求ストを可決

二十二日、二八〇名におよび学友を結集して、学生大会が開かれた。

学長一方的に団交を拒否

二十五日、十時に約一時間遅れ、早川教授を除いた五名の評議員と学長が出席した。すでに十時に結集していた学長は、ただちに遅刻理由に関する釈明の要求をした。この間に慶伊教授が壇上に現われたため、評議員でない慶伊教授の退場要求。これに関し学長は昨日講壇にいた慶伊教授が「広報……

（二めんにつづく）

巨視微視

▼本学に、スト中の入試問題を付け問題を取材に来た（彼は、何を取材に来たのかわかったものではない！）アサヒの某記者が、学生同士のストに関する押し問答を、カメラに写し始めた。全くのハプニングの様に。とんでもない、彼にとってはいかなるハプニングもありはしないのだ。そこで関係ないのでトルナとイチャモンをつけたわけだ▼こちらの言い分は、新聞写真になるからトルナということだ。それに対し、そのアンヤの言い分がハレンチだ。自分を信頼せよというのだ。この一件、まさに人と人との関係だったと分か言いたいのだ▼少なくも、次の様な事実は明らかになっている。現場の記者がいかに記事を書き、編集段階で何らかの手を加えられるということだ。しかし、このアサヒのアンヤさん、これも当然の事ではないか……

本質を闇ペイするという意味で、これを粉砕せよ！と。（B）

テンソル解析　矢野健太郎　武藤義夫　共著　A5 一、八〇〇円
本書はテンソル解析を用いて微分幾何学ことに接続の幾何学を、大学3、4年級程度の初学者にもわかりやすいよう述べたものである。また、本書ではリーマン幾何学と並んで重要な接続の幾何学を中心とし、大域的考察も比較的容易なものに限って述べた。〈数学文庫5〉

コロイド科学　松浦良平　近藤保　共著　A5 一、〇〇〇円
最近科学や技術の広範な分野でコロイド科学の知識が必要となってきた。本書はこの要望に応えるため、断片的な事実の羅列ではなく、基本的な式の誘導法や重要な概念の解説に重点をおいて書かれたものである。大学における講義の教科書または参考書、および現場の技術者の知識や基礎固めに好適。

例解NMRチャートの読み方　H・バイブル著　湯川泰秀　安藤喬志共訳　A5 一、五〇〇円
90枚の実測のチャートを例にとりあげ、《問題と解答》という形式をとおして、有機化合物のスペクトル解析に必要な事柄が生きた知識として理解できるよう配慮されている。基本的な原理や多くの経験則が実例を用いて説明されているばかりでなく、一枚のチャートから何がどこまでわかるか、それ以上の知見を得るためにはどんな方法があるかを教えてくれる。〈広川化学シリーズ23〉

アリンジャー　コンホメーションの解析　東北大学教授　伊東椒　訳　A5 二、五〇〇円
原著は、現代有機化学の基本的概念であるコンホメーションについての現在の知識を網羅し、この分野における業を評しい、権威ある本である。専門課程の学生、大学院学生のみならず研究者の参考書として最もすぐれたものの一つといえる。

ミズロウ　新しい立体化学　大阪大学教授　三角荘一　訳　A5 一、三〇〇円
■本文二色刷■　本書は領域立体化学の基礎概念に特に主眼をおいて書かれたもの。第一章では結合性軌道、分子の対称性―点群への分類、分子のひずみ等を多くの図を用いてたくみに解説。第二章で立体異性体を新分類法で説明し、光学活性の現象に重点をおいた。第三章で不斉合成、速度論的分割等、立体異性体の分離を力説。

ブレスロウ　有機化学反応機構　大阪大学教授　村田一郎　訳　A5 一、七〇〇円
■本文二色刷■　有機化学の反応機構については既にGouldHineなどの多くのすぐれた著書があるが、いずれも相当に程度の高いもので大学学部学生にとってはかなり難解である。この意味で本書は有機反応機構を学ぶための入門書としてまことに適切な内容をもっているといえよう。

ハウス　最新有機合成反応　名古屋大学教授　後藤俊夫　訳　A5 一、九〇〇円
本書には、反応式が豊富にとり入れられており、反応条件、収量など実用的な面に重点をおくとともに、従来の本にありがちな反応の羅列に陥ることもなく、著者の実地の経験に基づいた注意が述べられ、立体化学を中心とした反応機構などがていねいに解説されている。

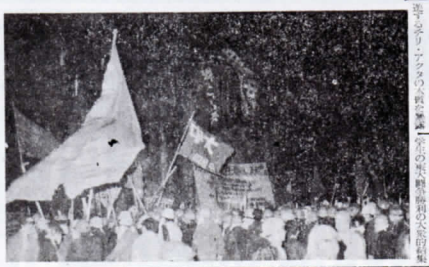
東京都文京区本郷三―二七―一四
振替　東京　八二六九四番
電話（八一四）五五六一
廣川書店

数学要項公式集
東京工業大学教授　小松勇作編　A5判 784頁　定価 2,800円
本書は広い基礎知識の習業と応用面に役立つことを主眼として、数学のほぼ全域にわたって精選された主要事項と基本公式とを集録し、体系的に分類配列した画期的な要項公式集である。日本数学界の俊秀と十年余の歳月とを要して完成した本書は、数学及び関連分野の学生、教育者、技術者の座右の書として役立つものと確信する。
●主要な定義・定理・公式を網羅し遅かに検索できるよう組織だてて配列した。
●各事項は小項目に至るまで細分類され関連事項についても有機的に参照し得るよう配慮した。
●詳細な索引を添付し活用の便を図った。
【主要目次】第1章 初等の公式／第2章 整数論／第3章 代数学／第4章 Euclid幾何／第5章 解析幾何学／第6章 微分幾何学／第7章 微分学／第8章 積分学／第9章 特殊級数と積分変換／第10章 集合と位相／第11章 測度 積分／第12章 常微分方程式／第13章 偏微分方程式／第14章 積分方程式／第15章 変分法／第16章 函数論／第17章 特殊函数／第18章 確率／第19章 統計／第20章 実用数学／索引 人名・事項・記号　＊内容見本呈

東大闘争

安田講堂防衛で入試粉砕

一月九日、日共との対決から国家権力との正面対決へ



神田解放区で支援する

一月九日、日共との対決から国家権力との正面対決へ

論説　東大斗争への視点

「進歩性」「保守性」の大学機構の崩壊

1

2

3

無期限ストの意味を問え

―寮生からの寄稿―

無期限スト決定報道　NHKを弾劾する

一めんより眺く

喫茶
COFFEE M まちかど
工大本館横

独自技術でアクリル酸エステルの工業化に成功！
東亞合成化学
●資本金48億円　●従業員 3,500名　●設立昭和17年3月

挑戦の個性117クーペ
挑戦の個性
いすゞの個性
君の個性
YOU & ISUZU
君の個性を生かす いすゞ
君の個性は 体制派or連帯派？
君の目標は スペシャリスト or ゼネラリスト？……
いすゞは 君の個性を生かします。君といろいろの関係。
将来について話し合いたい――
この精神をもっています。
ご連絡下さい。
TEL (03) 762-1111
人事部人事課
いすゞ
いすゞ自動車株式会社
創業 大正5年
設立 昭和12年4月3日
資本金 250億円
従業員 14,500名
工場 川崎／藤沢／栃木／滋賀
本社 東京都品川区東大井
6-22-10

東大闘争＝写真特集

この闘争も、現体制構造に対する果てし無き問いの一環である。

それは抑圧からの解放という次元で、現在の体制構造内大学の存在自体への問いが、社会的に上昇していく普遍性を具現化し得た故に始めて存在し得たのだから。

そしてまた学生自身のその存立基盤への問いとして、それを前提として出発することの不当性に於いて、人を止まらせた。

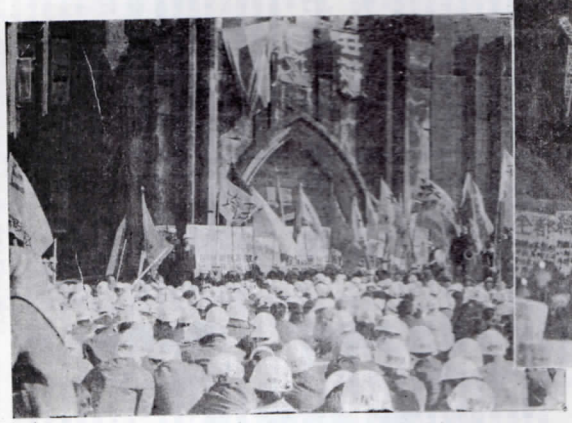
お茶の水「カルチェラタン」の…

予盾は、我々を通し、或いは自己を通し、己れの現前にたち現われるものである以上、我々の、或いは自己の対応は、その予盾への対応として位置づけられねばならない。

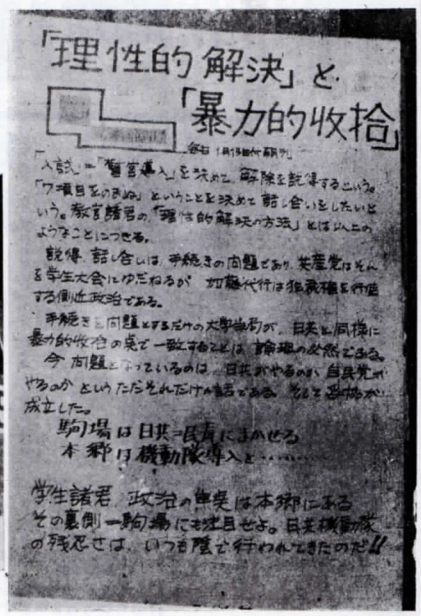
その時、人は、自分の中に自分の全存在が、裏に隠蔽して立ち現われることを拒否し得なかった。

それは、己れの空隙の裏只中に発せられた問いであり、そして発せられる以上答えねばならぬ。

この闘争もまた、我々の価値観に対する挑戦なのである。

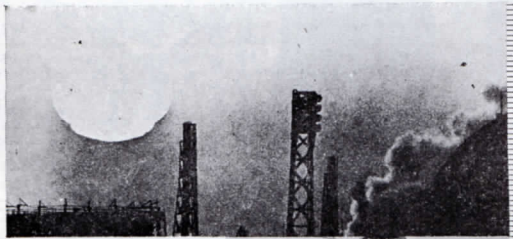


闘争の中の安田砦―機動隊導入



コンピューターとともに
豊かな社会をきづく

日本アイ・ビー・エム



注目のシステム/360をはじめ性能を誇る各種IBMコンピューターは、いまわが国のあらゆる産業界へ導入され、経営合理化の推進にめざましい成果をあげています。

情報革命の強力な推進者として絶えざる創造と開発を続けるIBM――その総力の結集として　最高の製品・技術をおとどけしているのです。人間生活の向上と産業・社会の発展をにない　輝かしい未来をひらく……この大きな目標に向って日本アイ・ビー・エムは　今日も力強く前進を続けています。

日本アイビーエム株式会社 IBM

寮斗争の現在的地点

斗争の社会総体での把握を

寮斗争無期限ストへ

実現されぬ要求の中で

十四日三寮委員会の三年生による中にあって、寮務部委員会学生部交渉、寮生学寮大会のための学寮大会、寮問題学寮委員会、寮問題学寮委員会の開催が決まった。寮問題学寮委員会は、寮問題学寮委員会の開催が決まった。寮問題学寮委員会は、寮問題学寮委員会の開催が決まった。

巨大な制度的矛盾を陰ぺイする学生対策

一・一七「全学集会」の犯罪性

大学当局の手にある「自治」を奪いとれ

機構とゆ着した私達の存在

大学の帝国主義的改編反対

大学当局の反大学生の示すもの

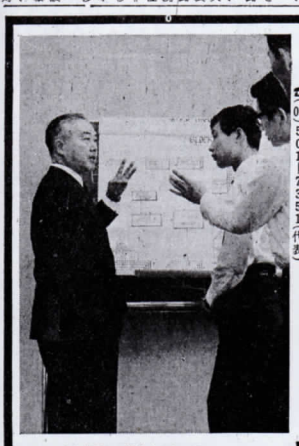
帝国主義の中央集権化

大管法廃案以後の〇管規

坪井専務はサイドベンツのスーツを着ています

坪井専務は“若人こそ真に創造する頭脳をもつ”と信じています。未来への道を切り開いてゆくファイトとバイタリティに満ちたあなた方若人と接し語り合い、常にフレッシュな感覚で仕事に取りくもうとする心、そんな心がサイドベンツのスーツにも現われているのです。日本アビオトロニクスは、今年で9年目をむかえ、航空電子産業界、情報産業界に着々とその地位をかためようとしています。“頭脳で勝負する日本アビオトロニクス”の明日を背おう若人を求めます。

設立・昭和35年4月8日（NEC日本電気と米国ヒューズ・エアクラフトの合弁会社として設立）
資本金・3億6千万円
従業員数・800名
営業品目・航空情報処理組織／電子計算機および同応用機器／データ処理各種ソフトウエア／システムエンジニアリング、コンピュータープログラミング／周波数走査型三次元レーダー／電子管／超精密小型溶接機／プリント配線板
連絡先・東京都港区西新橋一丁目15番1号（住友田村町ビル）〒105 日本アビオトロニクス株式会社・人事課 ☎(03)501-7351(代表)

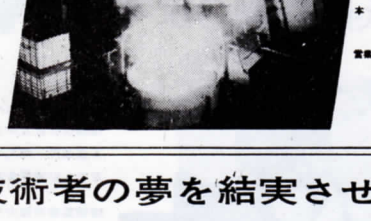


＊いつでもお気軽にご照会ください。ご連絡くださった方には、入社案内をお送りします。

NACL 航空・情報エレクトロニクスの
日本アビオトロニクス株式会社

ミュスカ
マイルドなコーヒーの味
勤眼横入る
TEL 七二九一五二〇五

ここに〈力〉を発揮する
たゆみない設備合理化！



主製品
ヤスキハガネ（YSS）
ロール（製鉄・製紙用）
印管継手・バルブ・溶接継手
マレブル品・鋳鋼品・鍛鋼品
チエン（マレブル・スチール）
マグネット・アルミ合金鋳物

日立金属
日立金属工業株式会社
本社 東京都千代田区丸の内2－16千代田ビル 電話(211)5311(大代表)
営業所 大阪・戸畑・名古屋・広島・札幌・広畑・笠戸・浜松・倉敷

若い技術者の夢を結実させる

合成樹脂を中心に開発し発展する　総合化学会社

合成樹脂、合成繊維、化成品、油脂、食品、発酵、プラスチック電線……

高い水準の自社技術の開発と育成

塩化ビニール、ABS樹脂、発泡スチレン、カネカロン、RNP、カネクロール……などはすべて当社の若い技術者の研究開発を結晶させたものです。

石油化学との関連によって各種合成樹脂へ進出

EDC法の塩化ビニール、レッペ法のブタノールをはじめ、スチレン系樹脂ポリエチレンなど各種合成樹脂分野へ

創立以来伝統のフロンティア精神

フロンティア精神に燃え、きびしく相互啓発を図ってきた、優れた技術陣へ、参加されることを期待する。

入社後の待遇
初任給 修士 30,552(東京・大阪)
学士 27,103(東京・大阪)

詳細は 下記へお問合わせください
東京都千代田区大手町大手町ビル〈TEL(201) 6571〉
東京事務所／事務部長／高山陸之

バイオニア
高分子化学の
鐘淵化学
KANEGAFUCHI CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.
本社／大阪市東区淡路町121
東京事務所／東京都千代田区大手町・大手町ビル
研究所／神戸市兵庫区吉田町1
工場・事業場／高砂・大阪・神戸・大津・東京・福岡・名古屋・札幌

会社概要
設立／昭和24年9月1日
資本金／43億8,000万円
売上高／230億（'69～'与）
従業員数／2,500人（大学卒 400人）
社長／中司 清

50年の基礎をふまえて
椿本チエインは
大きく伸びようとしています

創業以来50年——椿本チエインは
チェーンとコンベヤをつくり、生産性の
向上につとめてきました。そして
いま、本格的な人手不足を
むかえた日本にとって
動力伝動と運搬の合理化による
省力化は不可欠のものとして
注目をあびています。椿本チエインは
日本を代表する省力化のエース。
あなたの力を生かせる会社です。

営業内容 ●伝動装置関係・スプロケット、自動車用タイミング装置 チェーンモートル、減速機、ギヤモートル、カップリング、パワーシリンダ、モールス伝動装置 他。
●運搬装置関係・アテハン エンジニアリング、各種コンベヤ・電気制御装置の設計・製作、保全サービス 他。

椿本チエイン
TSUBAKI
創業 大正6年
本社・工場 大阪市城東区鴫見町620
埼玉工場 埼玉県新座市新光20
東京支社 東京都中央区日本橋江戸橋2（太陽生命ビル）
お問い合せは——
本社人事課 大阪(06)911-1221
埼玉工場労務課 飯能(04297) 3171
東京支社総務課 東京(03) 272-1621